SUWA.A.C WEEKLY

＜週報№. 3,035＞　3,148 回例会

2023 年 8 月 4 日（金）

■会長／山田　文雄　　■幹事／小平　直史

◆司会＝合田　敦子副ＳＡＡ

◆ゲストビジター＝インターナショナルスクールオブ長野代表　栗林　梨恵様

◆出席報告

本日	67.31%	17 名欠席
前回訂正	76.92%	12 名欠席
前々回訂正	75.00%	13 名欠席

◆ラッキーナンバー＝№.36　川村総一郎君

◆ニコニコボックス＝●山田文雄君・小平直史君＝前回は素敵な職場訪問例会をありがとうございました。鰻も絶品でした。本日は、インターナショナルオブ長野代表、栗林梨恵様の卓話です。よろしくお願いします。**●小島拓也君**＝本日、国際奉仕委員会の担当例会です。インタースクールオブ長野の栗林様、卓話をよろしくお願いいたします。**●川村総一郎君**＝ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・山田文雄君＝篠今日はクラブ計画書の表紙の裏にあります「四つのテスト」に付いてお話しします。

四つのテスト（Four - Way Test）

真実かどうか（Is it the truth？）

みんなに公平か（Is it fair to all concerned？）

好意と友情を深めるか（Will it build goodwill and better friendship？）

みんなのためになるかどうか（Will it be beneficial to all concerned？）

何故か、この短い 4 つのフレーズがなかなか覚えられません。それ故、実は四つのテストには後日、曲が付いて憶え易いようになっています。

ロータリー情報研究会によると、四つのテストは以下の経緯によりロータリーで広く活用されているとしています。以下引用します。

職業人としてのロータリアンの心構えを、ロータリーの倫理基準から具体的に記述したものが「ロータリー倫理訓」だとすれば、それをロータリアンのみならず一般の職業人にも理解できるように、簡潔かつ的確にまとめたものが「四つのテスト」です。ハーバート・テーラーは、倒産に瀕していたクラブ・アルミニウム社の社長に就任し、正しい営業活動を行なえば必ず会社が再建できると考え、「四つのテスト」を示しました。同社の業績は改善を続け、暫くして借金は完済、5 年後には株主に多額の配当金を分配するまでになりました。1954 年、彼が RI 会長に就任したとき、その版権がロータリーに譲渡されました。四つのテストは世界各国の言葉で翻訳され、広く活用されています。とあります。

日本では各クラブそれぞれが、いろいろな訳し方をして使っていたのを、昭和 29 年頃手島元 RI 理事が公式な日本語訳の決定権の委嘱を受け、国内全 RC に訳文の公募をし、70 余りの案が寄せられ、ロータリー50 周年記念委員会による審議の末、現在のものが決定されました。

冒頭にお話ししました通り、短いのになかなか憶えられませんが、さすが日本全国から募集し、決定した翻訳文ですので、素敵な奇麗な文章です。

この四つのテストの元々の意味に付いては源流の会のコメントを見つけましたので、引用します。尚、4 年前の公式訪問で当時の古川ガバナーが使用したパワーポイントにも同じ記載がありました。

＊真実かどうか（Is it the truth？）「嘘偽りがないかどうか」という意味です。「真実」というのは「‥%の真実」という言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的判定であるのに対し、「事実」とは有ったか無かったのかの二者択一を迫るデジタル的判定ですから、ここでは「事実」という言葉を用いるべきでしょう

＊みんなに公平か（Is it fair to all concerned？）fair は公平でなく公正と訳すべきです。公平とは平等分配を意味するので、例え贈収賄で得た”unfair”不正なお金でも平等に分ければ、それでよい事になります。”All concerned”は“All”だけが訳されており、肝心の”concerned”が省略されています。この”concerned”は取引先をさすのは明白です。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正かどうか」ということを意味します。

＊好意と友情を深めるか（Will it build goodwill and better friendship？）“goodwill”は単なる好意とか善意を表す言葉でなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店の暖簾や取引先を表します。すなわちその商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げ、取引先を増やすかどうかを問うものです。

＊みんなのためになるかどうか（Will it be beneficial to all concerned？）”Benefit”は「儲け」そのものを表す言葉です。ただし、売り手だけが儲かったり、また買い手だけが得をしたのでは公正な取引とは言えません。その商取引によって、すべての取引先が適正な利潤を得るかどうかが問題なのです。英文での意味が理解出来たでしょうか。

ソングに直すと次のようになります（会長 sang）

“嘘をついてないか？取引先に公正か？常連客を増やせるか？みんなも揃って儲かるか？”

本来の英文は、こう言っている事になるという事実だけをお伝えしました。これが正しくて、公式日本語訳が誤りと言っている訳ではありません。

先日、思い立って、諏訪クラブ 10 周年に建てられ、その後例会場前に移設されたと言われる湖畔の「やわらぎ像」を訪れ、像を見上げ目を閉じ、約 60 年前の先輩に思いを馳せました。目を開けると、目の前の台座には 10 周年記念誌に書かれている通り、4 つのテストが刻まれている事に気づきました。

読んでいると、不覚にも途中で文字がぼやけて読めなくなりましたが、心が洗われました。

約 60 年前の先輩が「ひそかなる我々の願いを込めた」とされる、この台座に残してくれた、現在の公式日本語訳四つのテストを、我々は大切にしてゆきたいと思います。

以上会長告知とさせて頂きます。

◆幹事報告・小平直史君＝①本日の例会は、国際奉仕委員会の担当例会となります。栗林様、小島委員長、よろしくお願いいたします。②元旦に発生いたしました、能登半島の地震に対しまして、地区より、一人あたり 1,000 円以上の義援金の依頼がありました。理事会にて協議し一人当たり 2,000 円、合計 100,000 円を寄付いたしましたので、ご報告いたします。

③RI 日本事務局より、古屋会員にポールハリスフェロー（3 回目）の認定バッチが届いております。後ほど、山田会長より授与いたします。④例会終了後、定例の理事会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

◆委員会報告・会報委員長・吉越潔君＝先般、ロータリーの友の電子版の ID・パスワードを送付いたしましたが、一部誤りがあり、再送しました。ご確認をお願いいたします。

◆セレモニー　●ロータリー財団ポール・ハリス・フェロー＝古屋了君（3 回目）

◆クラブフォーラム（平和構築と紛争予防月間）　●国際奉仕委員長・小島拓也君＝本日は、インターナショナルスクールオブ長野の栗林梨恵様にご講演を頂きます。ご縁があって、栗林様とお知り合いになり、その教育方針がウェルビーイングな社会の担い手を作るという点に感銘を受けました。今回、栗林様の教育に対する取り組み、思いを卓話頂きます。栗林様のご経歴ですが、イギリスのバーミンガム大学で MBA を取得され、ヨーロッパ、アメリカで 14 年間の海外経験を積み、22 年間幼児・児童教育に携わっております。英語、日本語、フランス語、アラビア語を話すことができます。モロッコ投資銀行にご勤務の後、2012 年、ISN の 1 つ目のキャンパスを長野県松本市に設立、現在、9 つのキャンパスを立ち上げております。

●インターナショナルスクールオブ長野代表・栗林梨恵様＝皆さんこんにちは。インターナショナルスクールオブ長野（ISN）の栗林と申します。本日は、「世界という選択肢をすべての子どもたちへ」と題し、ISN の活動についてご紹介できればと思います。12 年前、1 番最初のキャンパスをつくった際の私の仕事の目的は、「自分のため、自分の子供のため」というところがありました。そのうち、沢山の生徒さんたちがキャンパスに通うようになり、沢山がファンになってくださり、地域の方々に「ありがとう」と支持頂くことで、すごくうれしくなり、「できることは、何でもやろう」「恩返しをしよう」という気持ちになりました。今では、1 歳ぐらいで入校した子どもが、今は一番上の学年が中学 3 年生になっていますが、海外の学校への進学、国内のインターナショナルスクールや県内の進学校に願書を出しているというような状況です。このように子どもたちに「選択肢をつくっていく」ということで、私は貢献ができると思っております。

また、今までは「子育て」「英語を使って」といったことで社会に貢献しようとしか考えていなかったのですが、今回、皆様とお会いする機会を頂いたりするなかで、様々な人たちに、もう少し違った形で貢献ができるのではないか、と考えております。これが、私のチャレンジだと思っております。

まず、ISN について、ご紹介をしたいのですが、12 年前の 2012 年、幼児のキャンパスを設立いたしました。その後、キャンパスで学んだ子どもたちが成長したことを契機に、フリースクールとして小学部の子が増え、また、人数が松本では 80 名を超えたため、松本市四賀地区へキャンパスを移転しております。ISN は「子どもたちに選択肢をいろいろな所につくりたい」ということを目的として活動しております。

また、ISN は「幼・小・中一貫校」です。2 歳から英語で生活をし、認定こども園から私立の小学校まで、子育て支援センターの委託をさせて頂きながら活動しております。これらのキャンパスで取り組んでいるのが、2017 年から導入している国際バカロレア（IB）というプログラムです。中学部については、ケンブリッジプログラム（イギリスのプログラム）をやっています。保育課については、無償化対象なので、保育料は無料ですが、特別プログラム料をお支払いいただいております。尚、年間の学費は 60 万円～120 万円程度となっております。私たちが提供している研修内容ですが、地域の方、保護者の方に対しても、英語、ウェルビーイングなど提供しております。また、海外の提携校として、オーストラリアのメルボルン大学、フィンランドのトゥルク大学と連携しております。

先ほど「チャレンジ」の部分のお話になってくると思うのですが、現在、成長とともに失われる多様性があると思っています。小さい頃は、無限の可能性があったのですが、現代の一般教育によって、多様性が小さくなっているのではないか、もし成長しても、小さい頃の多様性、無限の可能性がそのままになっていればよいのに、と思います。多様性が失われない社会を創るために、必要なことは、「現実的に生きていく力」「社会と関わる力」「モノを作る力」「人とともにつくり、コトを起こし、一緒に創っていく力」ではないのか、と考えています。そのためには、次の３つの学び、具体的には「イノベーティブな学び」「人と交流し、ともに学ぶ」「自然と共存で学ぶ」が必要だと思います。また、この３つの学びに、例えば皆様の企業がお持ちの技術、ネットワーク、技術者が活かされれば素敵だと思います。これらを実践していくことにより、『社会に沢山の幸せな人がいる状態』の担い手を作ることができるのではないか、と考えております。

◆今後の例会日程

2/9(金)	クラブ協議会　上半期会計報告 ガバナー補佐訪問
2/16(金)	準法定休日
2/23(金)	法定休日
2/26(日)	諏訪グループ　インターシティミーティング